

令和7年度 全国学力学習状況調査から

羽曳野市立古市小学校

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

※今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

2. 調査対象 小学校6年生

3. 調査日時 令和7年4月17日（金）

4. 調査結果分析

	本校の結果や課題	課題解決に向けた手立て
国語	【成果①】短答式の問題の正答率は、全国 78.5%に対して本校 80.5% (+2.0pt) であった。漢字の正答率は全国 72.1%に対して本校 76.9% (+4.8pt) であった。 【課題②】記述式の問題の正答率は、全国 58.8%に対して本校 52.3% (-6.5pt) であった。	①本校では、毎日、朝読書に取り組み、日常的に読書に親しみ、語彙力を積み重ねてきた。また、基礎基本の定着を図り漢字学習に取り組んできた結果「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる力」がついたと考える。引き続き、さまざまな教科で学校図書を利用し、本に親しむ機会を設ける。 ②本校は昨年度から国語科「自分の考えを書く力を育てる」というテーマで研究を行っている。目的や意図に応じて簡単に書き表し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力を育成している。情報活用能力や必要な情報を取捨選択する力を今後もつけていきたい。また、今後も、学習指導要領に準じて作成した『かくかく』（「書くこと」の指導の指標となるもの）に基づいて、学校全体で系統立てて書く指導に取り組んでいく。
算数	【成果①】記述式の問題が4問中、無解答率が4問中3問において 0.0%であった。 【課題②】面積を求めるため、分割する方法を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題において正答率が、全国平均を下回った。	①2年前まで本校で算数の研究を続けてきた「自分の考えを伝え合い、深い学びをめざして」の成果が出ている。振り返りを書く経験を重ねる中で、自身から意欲につながった結果と考える。また、自分の考えを論理的に説明する力を今後もつけていく。 ②問題文から必要な情報を読み取って、式に表し答えを求めるだけではなく、計算の仕組みを論理的に説明できる力を今後も育てていく。また、考えを深め相手に論理的に説明できるよう授業改善に努める。

理科	【成果①】『思考・判断・表現』の正答率が5年生の時に行った「すくすくウォッチ」の結果に比べ大きく改善した。 【課題②】『知識・理解』の正答率が全国平均を下回った。	児童が興味を持って意欲的に学習に参加できて授業を意識し『考え方を説明する』『意見を共有する』時間を大切にしているため思考の深まりが見られている。 授業の『ふりかえり』を行う中で、教師、児童共に習熟度を確認しこれからの学習にいかす。また、自主学習を進める中で、学んだことを絵や図と共に語句を整理することで知識の定着を促す。
児童質問紙より	ICTの活用では頻度を上げる事だけではなく“使いこなす”（技能）と“役立つ実感”（効力感）の両方が高い児童ほど、国語・算数・理科の点が高い傾向があることがわかった。 「授業で工夫して発表していた」の質問に対し「発表していた」「どちらかといえば発表していた」の割合が大阪府、全国より古市小学校は高い。 自己肯定感が高い児童は人の役に立ちたいと考える傾向がある。また、全国平均と比べ、自己肯定感は低いが、人の役に立ちたいという願いを持っている児童も大多数いることがわかった。「人の役に立ちたい」と願う児童が多いことは、古市小学校の児童の大きな特徴であると考えている。 「毎日、決まった時間にねていますか。」という質問の解答と学校生活・友だち関係・自己肯定感の解答を調べた結果を関係づけて調査した結果、決まった時間に睡眠をとれている児童は、学校生活、友だち関係が充実し、自己肯定感が高い傾向にあることがわかった。 本にたくさんふれる時間がある児童は、学力テストの正答率が高い。	本校児童は、情報を整理することに課題があることが分かっています。授業を通して、比較表や因果図、時間軸など、情報を抽出して表現する機会を設けることで、情報整理をする力が養われることが考えられます。 授業の中で、「前時の学習とつなげて（考えよう）発表しよう」「人の意見と比べて（考えよう）発表しよう（～さんとちがって、～さんのつけたしで）」「〇〇の部分をくわしく発表してごらん」など考えを深める工夫を今後も促していく。 役割を果たし、人の役に立ったと感じられる機会を教師が意図的につくり、その経験を積ませていきたい。また、人の役に立てたと感じられる経験から、自己肯定感があがるような良いサイクルを教育活動全般を通して確立していく。 同じ時間に寝ている児童は、情緒が安定していることが伺える。規則正しい生活を過ごしたくても過ごせない児童がいることも理解しつつ、この結果をふまえ睡眠の重要性を児童に啓発しつつ、家庭と協力して取り組んでいきたい。 家庭と協力しながら、本の有益性は、啓発しつつ司書の先生と協力しなら、学校図書館の利用を促していく。